



未来へのいっぽ

～母として、人として、地球人として～

現実はおそろしい。
でも「今」を生きてるから、そこに立ちながら最善を尽くす。
それだけ。

「今・ここ」

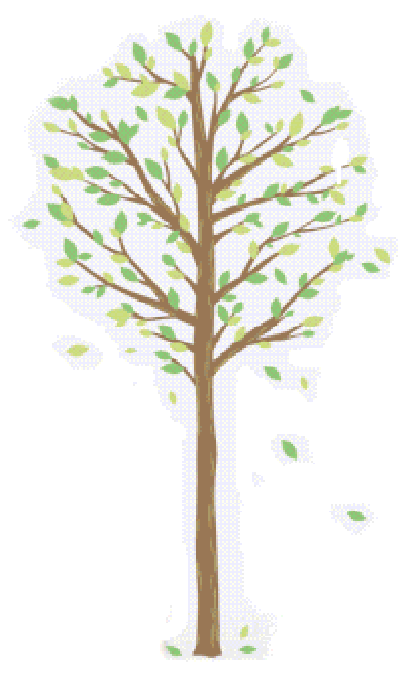
苦しみや悲しみは過去からの遺産
それらに囚われることがなければ
「今」は大丈夫と微笑むことができる

不安は未来から響いてくる未知の声
でも、明日は「今」の一步から始まる
そのことを知れば、道が見えてくる

時間とは
一つのものが流れを成しているのではなく
一瞬一瞬、自己再生する「時」の絶え間ない連鎖
それら、無限の可能性を内包しており、常に新しい

「今・ここ」にしっかりと根を下ろせば
一瞬の今が最大の力となり、道となる

石部 ルーシー



未来をつむぐ母の会 ふうふうーる

<http://miraiwo2mugu.web.fc2.com/>

私たちは京都府京田辺市と同・城陽市に住む母のグループです
エネルギーのこと、食、教育、暮らし方、生き方。

みんなつながっていてみんな大事
ひとりひとりが動き始めたらきっと世界が動き出します
世界の中の1ピースである自分の力を信じて、
光ある未来を一緒につむいでいきませんか？
仲間を募集中です


miraiwo2mugu@mail.goo.ne.jp にアクセスください





おかあさん

「体内被曝」が危いんです
～子どもたちの笑顔を守るために～

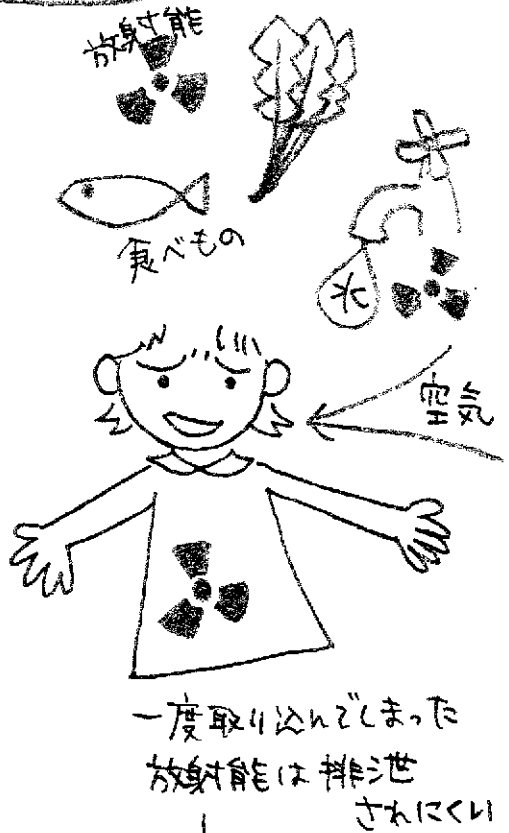
Q1  放射能がもれているのに
「ただちに健康に影響は出ない」とて
本当に安全なの???

安全ではありません。

ヨーロッパの医師らが
非常に心配しているのは、
原発から放出された放射性物質
を吸い込んだり、食べ物で取り込んだ
りして、体の内側から起こる
「体内被曝」です。

レントゲンや飛行機に乗った時の
一過性の被曝とは違い、
体内被曝は放射性物質が細胞
に付着するので、細胞が直接
放射線をあび続けちゃうんです。
放射線を傷ついた細胞がひとつごと
がん化するとがん細胞は増殖直
します。

大人よりも細胞分裂がさかんな
子どもたち、特に乳幼児や胎児
への影響が心配されます。
放射性物質はたとえ微量でも
体内に取り込むのは危険なんです。



細胞、遺伝子破壊

- 3~10年後 白血病、ガン
- 妊婦... 先天性異常出産 (胎児) 死産



私たちの周りで起きていること。
じゃあ、どうしたらいい？

Q2

でも関西は大丈夫でしょ？

大丈夫ではありません。

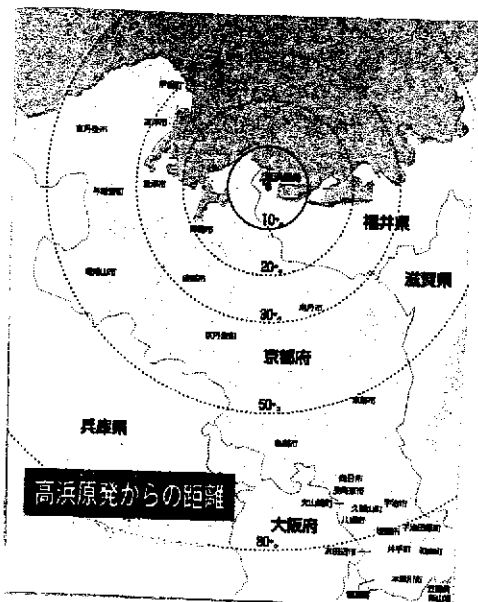
福島県からの放射性物質も風向きによつては関西、九州、四国、北海道にまでおよぶとノルウェー、ドイツ、イギリスの気象庁は予想しています。

更に福島県には14基もの原発と、もっと危険な「もんじゅ」があります。

日本が大地震活動期に入った今、どこで震災が起きてもおかしくありません。

福島県が震災にあい、事故が起これば、関西の水がめ「琵琶湖」が放射能で汚染され、「淀川」も汚染されます。

つまり、「淀川水系」に頼る関西はたちまち放射能で汚染されるといわけです。



Q3

どうしたら放射能汚染を防げる？

原発を止めることです。

原発を止めても電気は足ります。

今だからこそ、安全で豊かな本当の意味で幸せな未来のためは、一人一人が声をあげることが大切。

署名であったり、インターネットでなめたり、

省庁や議員さんにFAXしたり... 子どもたちの未来のために母として、大人として思いを共有にしていきたいと思います♡

「原発止めたら電気が足りなくなる？」

最大電力需要量は、火力と水力の合計発電能力だけで十分賄えます

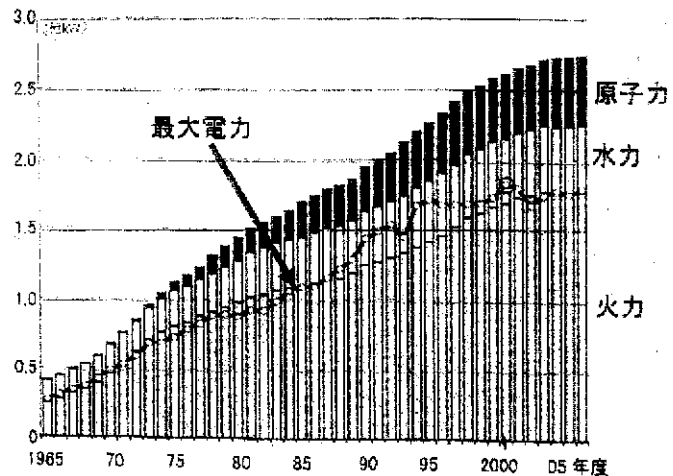
[発電施設の設備容量と最大電力の推移]

最大電力が火力+水力の発電能力を超えたことはないので、**原発なしでも停電しない**ことが分かる。

エネルギー・経済統計要覧

(1994年版～2009年版)より

藤田祐幸氏作成。



—去年の夏。

511ヶ所の点検漏れ、点検計画と実績に食い違いがある点検不備1160ヶ所という、ずさんな安全管理の実態が発覚して島根原発が止まっていた。

しかし、猛暑にもかかわらず、**電力は 不足しませんでした。**
中越沖地震で柏崎原発7基が停止していたときも**停電はしていません。**

中国電力は、山口県上関町に新たに原子力発電所を建てようとしています。震災後、知事の申し入れによって工事は一時中断していますが、まだ諦めていません。

建設予定地は、生物多様性のホットスポットで、美しいところです。そこを埋め立てようとしているのです。しかし、**電力は余っているのです。**

狂っていると思いませんか？何に狂っているか——？やっぱり、お金…。

許しがたいことのひとつに、**原発を建てるだけで電力会社が儲かる、**というしくみがあります。原発一基建てるのに3000億円かかるとしたら、建設費プラス3.5%、つまり、3105億円を私たちが支払う電気料金に上乗せして請求しています。

原子力発電が始まって以来、**原発被爆労働者**は40万人以上になるといわれています。

この人々はおもに釜ヶ崎や山谷で集められた**日雇い労働者**です。原子炉内での被爆労働で、これまでどれだけの人々が命を落としてきたかは、闇の中で封印され、「ないこと」になっています。それは日本社会の裏の姿です。

自然を破壊し、命を犠牲にしなければ成り立たないのが原発です

日本の電力は、

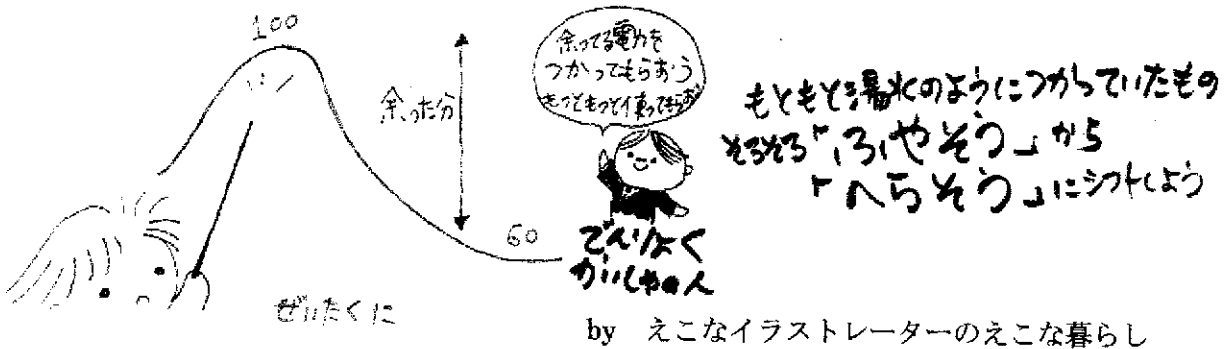
一年を通して、一番電力を沢山使う、最大ピーク量にあわせて作られています。

そのピーク量を100とすると、それ以外の時は50や60程度しか電気は必要ない。

つまり、電気はほぼ年中余ってしまうのです。

では、そのピーク時はいつかというところ…、真夏の日中です！

そう！デパートで、スーパーで、コンビニで、電車の中で、バスの中で、風邪をひきそうなくらい、キンキンに冷えているあの状態が元凶のひとつです。



<http://blog.goo.ne.jp/yamaneko4989>

このピークの電力量を減らせれば、原発何基分かの電力は必要なくなります。

真夏の最高に暑いあの時期に、なにも真冬のように寒くしなくてもいいでしょう…。

例えば、自動販売機をなくせば原発1基分の電力が必要なくなります。

例えば、オール電化の設備がなくなれば、原発2基分の電力がいらなくなります。

例えば、日本中の電気炊飯器をガスにすると、原発1基分の電力がいらなくなります。

例えば、テレビをやめたら、原発1基分の電力がいらなくなります。

24時間営業のコンビニを16時間営業にし、トイレの自動水洗をやめて手動にし、手を洗ったあとのドライヤー(?)をやめてハンカチでふき、夏場の便座暖房をやめ、いたるところで流している余計なBGMをやめ、電気製品をすべて省エネ製品にすると…

みんなあわせて何基分？

～何だか怪しい計画停電&東電会見～

現在の東電の供給可能な電力量は4000万KW。それに対し節電の努力で需要は3050万KW。実際は950万KW余っているのに、400万KW足りないと言って停電させた。

また、「火力発電所の復旧の状況は？」という質問に対し、東電側は「復旧時期は今週末。」と即答したあと、横からメモを渡され、「いえ、4月中です。」またメモが入り「夏ごろです。」と二転三転。なんだかとっても不自然…。真実はどこ…？

詳しくは、自由報道協会(上杉隆氏の報告)のサイトで。 <http://fpaj.jp/>



母として今を生きる

東日本大震災以降、相次いで浮かび上がってくる困難の根底にあるものは、今回の地震や津波によって急に発生したものではありません。問題は既に私たちの暮らしの中にあり、自然界はずっと警告を発していました。その警告をちゃんと聞き取れていれば、これほどの苦難の連鎖にはならなかったことでしょう。社会的な問題の背景には、必ず人間の営みがあります。この時を生きる全ての日本人、そして人類が、今起きていることの責任を我が身に引き寄せて感じ、考える必要があります。厳しい言葉かもしれませんが、これは私たちが引き受けなければいけないことなのです。個人の非ではありません。人類の罪であり、その一員としての責任なのです。

先日、**ustream** で放送された田原総一郎 x 孫正義対談での孫社長は立派でした。「私も、最近までは原発は（必要で）仕方ないんじゃないかと思っていました。今はそれを恥じます。今回のことが、全てを物語っていますよね」という趣旨の発言をされていました。孫社長ほどの立場の人が、そのような発言をするには相当の勇気と覚悟が必要です。今まで原発は安全、原発はクリーン・エネルギーと思い込まされてきた一般社会に、「私も知らなかったんです」と発言したことで、本当に今まで原発について知らなかった人たちや推進派の人々を考える側へと引き寄せる道を作りました。「非を自身に引き寄せる」、「当事者になる」。そのことで自身を変え、周りの社会を変える力が生まれるのです。逆を言えば、「私は関係ない」「私の責任ではない」と思った瞬間に変換の力は失われます。

便利さや物質的な満足などというものは終わりのない欲求であり、必要性とは関係のないものです。経済が暮らしを支えるというのも錯覚です。それらは、暮らしを楽にするために編み出された仕組みであり、それ以上のものではありません。私たちを支えてくれているのは、「ガイア」とも呼ばれるこの地球全体を覆う自然界のネットワークです。経済も文化も、全てこの大きく美しい有機体の中から抽出されてくるもので成り立っています。

私は経済や便利さを否定はしません。意識高い内容であり節度ある利用なら、その恩恵を受ける者の心と環境を豊かに育む可能性さえ内包していると思います。しかし、一般的な社会環境では、多くの場合、限度ない消費を意識ない選択にもとづいてくり返していくように仕組みられています。社会との調和を取りながらも、出来るだけこの仕組みの外に身を置くことこそが命の尊さと真の豊かさを感じて生きる道へと導いてくれるものであり、その鍵はお母さんたちが握っています。

今回の大地震は地球の地軸を動かし、平成 23 年 3 月 11 日という一日を通常より 1/1,800,000

秒短い日にしました。たったの 1/1,800,000 秒と思われるかもしれませんが、人類は地球の回転に影響するようなエネルギーを作り出せたことは一度もありません。ガイアの悲鳴は天体規模の叫びだったのです。その叫びが一人ひとりの胸にどのように届いたのかには個人差があると思いますが、その悲しみは全国の、そして世界の人々の上に蔓延する根拠なき不安となって覆いかぶさっています。

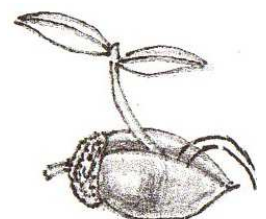
こんな時だからこそ、生きる力を最大限に表現できる子どもたちを守っていかねばなりません。彼らこそが希望であり、未来なのです。子どもは、どんなにつらい出来事からでもすぐに立ち上がり、命の光るほうへ向おうとする潜在的な能力を備えています。しかし、他の動物よりも体力的な自立までに時間がかかるため、常に親を見て身の安全を確認しています。私たちができる最大にして最良のことは、子どもたちが安心して生きられるよう、自らが落ち着きしっかりと歩むことです。子ども達を支えていける一番大きな存在もまた、母なのです。

社会的な観点から、個人の力や努力など小さくて影響力がないと思われるなら、福島原発事故以来、東電が電力不足を懸念して計画停電を発表したにもかかわらず、関東地方の電力使用量は一度も現在の最大供給量を超えたことがないという事実を見てください。たしかに、そのために生産能力が落ちて困っている企業もたくさんありますが、現時点では原発以外の発電所も被災して稼働していませんから、それらが復旧すれば状況は大きく改善します。現況は、企業と生活者が協力し合うことで東電の送電量が 30%減っても何とかなることを証明しています。これが可能になったのは、一人ひとりが電力問題を自分自身に引き寄せ、節電へと意識を向けたからにほかなりません。日本が世界に約束している CO2 の 20%削減だって、私たち一人ひとりがその気になれば、国や企業が騒いでいるほど困難なことではないはずだと思います。

迷った時には、「それは自然の摂理に叶っているのか?」「自然はどうなのか?」と考えてみてください。どんなに偉大な科学者も、最大の師は自然界です。自然界には存在しないもの・人が関わらなければ起こらないような現象・事象などは、どこかで自然界の軌道を逃しているかもしれないと疑ってみることが大切です。私たちも自然界の一員であり、その理から逃げられる存在ではないのですから。

命とは、本来どういうものなのか… その答えは無くても、日々の営みの中で問い続けることが子ども達を守り、明日を守る道へとつながっていきます。

ルーシー



おすすめです。要チェック！

田中優持続する志 <http://tanakayu.blogspot.com/>

きくちゆみのブログとポッドキャスト <http://kikychiyumi.blogspot.com/>

てんつくマンのブログ <http://ameblo.jp/tentsuku-man/>

植草一秀の『知られざる真実』

<http://uekusak.cocolog-nifty.com/blog/2011/04/post-0a50.html>

武田邦彦のブログ http://takedanet.com/2011/04/post_0a1f.html

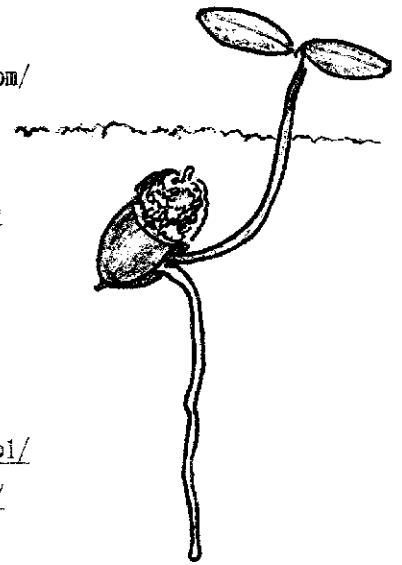
エコレゾウェブ <http://www.eco-reso.jp/>

福島原発関連情報 <http://www.ourplanet-tv.org/?q=taxonomy/term/83>

美浜の会 <http://www.jca.apc.org/mihana/>

グリーンアクション <http://www.greenaction-japan.org/modules/jptop1/>

ストップ・ザ・もんじゅ <http://www.page.sannet.ne.jp/stopthemonju/>



これからの動き

- ★4月18日(月) 田中優さん講演会&風人まーちゃんバンド*18:30~21:00*京都教育文化センター*無料京阪「神宮丸太町駅」5番出口より徒歩5分・連絡先 090-8141-6478
- ★4月24日(日) 緊急集会・ついに引き起こされた「原発震災」石橋克彦氏講演*13:00~*大阪社会福祉指導センター5F多目的ホール*資料代800円*地下鉄谷町線「谷町6丁目駅」4番出口南へ徒歩5分・連絡先 06-6772-4334
- ★4月24日(日) チェルノブイリ25年~語り継ぐ地球ヒバク・今中哲二氏講演*14:00~16:30*京都YWCAホール*700円 高校生以下無料*地下鉄「丸太町駅」2番出口北へ10分・連絡先 075-465-2451
- ★4月28日(木) 「フクシマから何を学ぶのか 世界史的視座から戦後日本社会を考える~広島、水俣、チェルノブイリ、そしてフクシマ」(仮)*18:00~21:00*ひとまち交流館 中野佳裕氏、守田敏也氏
- ★5月7日(土) 原発に依存しない社会へ~使い捨て社会を考える会・講演会・全ての原発を廃炉に・簡素な暮らしでいのちを守ろう*アイリーン・美緒子・スミスさん、植田劭さん*13:30~16:00*ひと・まち交流館(河原町五条下る東側)連絡先 075-361-0222
- ★5月15日(日) 「もんじゅ」公開討論会 in 関西「もんじゅ」の是非を問う~推進派・反対派討論会*13:20~16:45*エル・おおさか6F大会議室*参加資料代1200円学生700円*地下鉄・京阪「天満橋駅」西へ300m*要申し込み 072-843-1904
- ★5月21日(土) -今だから考えたい-原発のこと未来のこと*小出裕章さん講演会*13:45受付14:30~16:30*奈良女子大学文学部S棟S235教室*近鉄奈良駅1番出口北へ徒歩5分*資料代1000円*要予約 fax0742-55-8368